

3温度帯倉庫を稼働

来月 冷凍庫に自動システム



東日本トランスポート

森永乳業グループの東日 之社長、東京港区は、本トランスポート（柏木宏 月）に、常総営業所（茨城 県常総市）で

外観、内装ともに社員の意見を採り入れたデザイン

3温度帯の倉庫を稼働させる。同社初となる自社倉庫で、冷凍倉庫には自動システムを取り入れ、作業環境の向上を実現。食品を中心とした品目

を取り扱い、首都圏と地方を結ぶ中継拠点としても機能させる。

倉庫は、延べ床面積3千平方メートルの2階建て。常温、冷蔵（セ氏5度）、冷凍（零下25度）の3温度帯の機能を備える。冷凍倉庫は一般倉庫に加え、自動化を図ったスペースも設けた。

この自動倉庫は1500枚のパレット保管能力を持ち、1分に1枚のペースで商品を載せたパレットが自動で出荷される。敬遠されやすい冷凍庫内の作業環境を改善させ、従業員の確保・定着に結び付ける。

常総営業所は、常磐自動車道・谷和原インターチェンジ（IC）から5分、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）・常総ICからは11

分、立地の良さを生かし、首都圏と東北エリアを結ぶ中継拠点としても機能させたいと考えた。

同営業所は森永乳業グループの工場移転に伴って3年前に開設し、これまでは車両のみを置いていた。今回の自社倉庫の開設で、グループ外の貨物も積極的に取り込む。現在、車両は14台が稼働しているが、今後大きく増やしていく。

また、倉庫の外観は社内で意見を募集し、企業カラーの青を中心としたデザインにした。事務所の内装も従業員のアイデアを採用するなど、こだわりの施設に仕上げた。

菅川昌彦所長は「新規顧客を獲得して事業を拡大させる」とともに、地域貢献も

図っていく。車両を増やすことで、入出庫管理から配送までの3PL（サードパーティー・ロジスティクス）を提案できるようにしたい」と話している。

（土屋太朗）